

長崎倶楽部

No.34
2008.1.24

長崎県人クラブ事務局 〒160-0004 新宿区四谷1-10-2-412 tel:03(5366)4888 <http://www.k2.dion.ne.jp/~nkenjin/> 発行人/田崎 俊作

目次

- | | | | |
|------------------------|----|--------------------|----|
| ● 巻頭インタビュー25/山下 巖..... | 1 | ● 賛助会員紹介 | 19 |
| ● 講演会/安井 一臣 | 8 | ● 新刊紹介 | 19 |
| ● ふるさと遠めがね | 12 | ● 新人会員自己紹介 | 20 |
| ● TOPICS | 13 | ● 長崎関連イベント予告 | 20 |

題字：吉田 佳広

巻頭インタビュー
25

私と長崎

山下
巖

やました いわお

株式会社
ラオックス
代表取締役社長

「僕は自分の会社がつくった商品や製品をどう
アピールするのかわからないというところに興味があつて、
広告の仕事を選んだんです。」



外見は背が高く、りりしい白皙の紳士だが、実はなかなかのやんちゃ坊主。一度決めた後には引かない頑固者。奥様も中学の時の同級生なら、仕事も広告宣伝一筋。信念に貫かれた生き方が眩しいほど。このたびの代表取締役就任も、船長として船を最後まで見届けるという決意のあらわれ。まさに火中の栗を拾う思いだっただろうと想像する。経済戦国の世を鮮やかに生きる武人であった気がした。

(インタビュー・構成：岩波智代子 写真：宅島正二 取材日二〇〇七年九月六日 於株式会社ラオックス本社)

◆ ◆ ◆ この六月に社長に就任なさったそうですが、おめでとうございます。

山下(◆) 実はこの前の三月三十一日にちょうど六〇歳になったんです。うちの会社の規程では、誕生日をもって退職をするわけですね。で、僕も一応その日で退職扱いになりました。退職金もいただいて、四月の中旬ぐらいでしたか、前任者の社長が、幹部を集めて、「長い間がんばってもらったので拍手をもってお送りしましょう」と

↓ 山下巖氏のプロフィール
昭和二年熊本生まれ。長崎東高卒。長崎大学経済学部卒業後、松下電器産業を経て株式会社中浦電気に入社。宣伝部長、営業部長歴任。昭和六三年取締役。平成九年常務。平成一〇年株式会社ラオックスと合併。平成一九年六月代表取締役社長に就任

当時二三才、小さい会社ではありますが、部下七名の宣伝部長として僕のサラリーマン人生がはじまったんです。



定年退職でいきなり社長に

秀才の道を歩いてこられたのですね。

花束贈呈式もやってもらって、すっかりその気になっていたのに、それからものの二週間もたたないうちに、いきなり社長になれと言われたものだから、女房なんか胸ぐらをつかまればかりに反対しましたね、約束が違うと。長崎への旅行とか、海外へ行こうとか、いろいろしたいこともあるのに……。何年この日を楽しみに待っていたでしょうと(笑)。すごく叱られましたけど。そうは言っても、ある意味、幹部社員が船を降りるのは最後じゃないといけないので、会社が軌道に乗るのをちゃんと見届けるまではやらざるを得ないなということ引き受けたのが実情なんです。

——長崎では、梅ヶ崎中学を出られて、高校は東高、で長崎大学経済学部と。典型的な長崎の

◆……と僕は当時思っていました(笑)。ところが、今はラオックスの社長ですが、その前には中浦電気という会社の常務をやっていましたね、その頃長崎の時津に三菱電機の工場があって、そこは新幹線のエアコンなんかをつくっているところなんです。中浦電気の連中を一人ぐらい引き連れて工場見学をしたんですよ。バスをチャーターして長崎のエアポートから時津へ行ったり、市内を観光している時に、僕は長崎は詳しいものから、あれはなんだ、これはなんだといって、ガイドの代わりに説明していたの。すると、「山下さん、長崎にお詳しいですね、ここのご出身ですか」とガイドが言うから、そうですよと言ったら、どちらの卒業かと聞くので、まず梅ヶ崎中学校

だと。「お住まいは?」「大浦だけど」「エーッ、じゃあ番長じゃん」て(笑)。そもそも梅ヶ崎中学校に行っている連中は、喧嘩ばかりしていて、ろくに勉強してないやつばかりだったはずだと。「そんなばかなことはない。俺を見る。俺はちゃんと東高を出て、長大の経済学部も出ているんだ」と言ったら「それは珍しい!」という言い方をされてね。一緒にいた連中はすっかり信じてしまつて、長い間「番長、番長」と言われていたことがありましたね(笑)。そんなに梅中って評判が悪かったのかな。

——東高時代はどんなふうにか?

◆高校時代は、もちろん勉強もしていましたけど(笑)。弓道部に入りました。なんで弓道部に入ったかという、小さい頃から左足の関節が悪くて、いわゆる関節神経痛みたいな持病を持っていました。ですから、本当はスポーツをやりたいかったんだけど、あんまり下半身を動かさなくていいようなスポーツになり、趣味がないかなと思って、だから弓道は下半身をあんまり使わないなと思って入ったんですよ。

テナー、バリトンとベースで四人組をつくって、純心とか活水の学園祭に売り込みに行つて、ミニコンサートをやるわけですよ。そうするとお小遣いをもらえるわけですよ、出演料を。それで結構遊んでいましたね。

松下電器を一年で退職!

——そうして大学を卒業されて、入られたのが中浦電気さんですか。

◆いや、初めて入ったのは実は松下電器なんです。でも一年でやめました。

——えーっ、なんでお辞めになったんですか、松下電器を。

◆これは、そもそも、なんで松下電器に入ろうとしたのかという事なんだけど、僕は大学のときから、何かものを書く仕事をやりたいなと思っていました。当時、華やかになり始めた職業としてコピーライターという仕事があったね。小説を書くほど長い時間は必要ないけど、関きが必要ですね。それにある程度経済活動がわかってないといけない仕事なので、文学部の出身よりも、経済学部出身のほうが、いわゆるキーワードをつくったりコピーをつくったりするのにいいんじゃないかなと思って、コピーライターになろうと思ったんです。

社のコピーを書くわけですよ。僕はそうじゃなくて、自分の会社がつくった商品や製品をどうやってアピールするのかということに従事するコピーライターでありたいと思って、じゃ、どこのカンパニーがいいかなと思つたときに、当時の僕らにとっては、経営者としては松下幸之助さんほど素晴らしい人はいないなと思ったので、松下電器の宣伝事業部に入つて、そのコピーライターになろうと勝手に決めたわけです。

あのとき同期で一四名が入つたんですけれども、当時松下電器に一発で入社できたということとは、非常に名譽なことだったんですね。そういった意味で、提灯行列もので、長崎を送り出されたのです。そして松下に入

入社は昭和四四年ですけれども、当時の松下電器は、最初の三ヶ月間は工場実習です。次の三ヶ月間が販売店実習といって、いろいろな電気屋さんにお手伝いに行くんですね。その研修期間を経て、九月の初旬に正式に配属が決まるわけです。そのときに僕は宣伝事業部に行きたいとアピールしていたんですけども、結果として電機事業部の人事部に配属されました。

でも人事部に配属されること自体は、決して落胆することでも何でもありませんよ。松下電

器の人事部はエリートが多かった。「よかったね」と言う人もいたんですが、僕自身は絶対に人事部は嫌だった。コピーライターのほうがいい、宣伝部のほうがいいと云う思いが強くありました。まあ、そう言っても、しばらく辛抱していれば、人事異動もあるわけだし、我慢しなさいよと言われたんですが、我慢できなかったことが一つあって。

それは、僕が人事部に入ってから最初にやらされたことは何かというと、いろいろな労組とか、会社の集会に出かけていては、あいつは革マルだとか、あいつは社青同だとか、こいつは民生だとか、ちゃんとチェックしろと言われたのが最初のミッションだったわけです。これは、会社の指示ということではなくて、むしろ先輩社員の個人的な指導だったと思います。

でも、僕はもともと大学で学生運動をやっていたので、あたかも仲間を売っているような、仲間を売るための企業側のスパイ活動をやっているみたいな。もちろん先輩社員はそこまで重いミッションを与えたつもりじゃなかったにしても、僕自身はそういう受け取り方をして、これはたまらないと思いました。僕の人生観からすると、まず学生運動がある日突然やめて、資本家がやっている企業に入社す

ること自体に、僕自身は忤ねたものがあつたのに加えて、ある意味仲間をチェックするような活動をするのが大きなミッションとして持たされている人事部に僕ははいられないと。そして配属されて一週間目に辞表を書いたんです。

会社としてはいやしくも人事部が採用して、人事部に配属された人に、いきなり一週間で辞表を書かれたらたまったものじゃないですよ。面目もつぶれるし。だからなかなか辞表を受け取れないんですよ。

でも、とにかく僕は辞めますと言いつつ続けたときに、当時はいくつもある電気屋さんの二代目の人たちが帝王学を勉強しに松下電器に来ていたんですよ。その中に秋葉原の中浦電気の創業者のご子息が、僕と同じ大阪の香里園にあった独身寮にいて、「山下君、なんでそんなに辞めたいの?」という話になって、「実はこういう経過があって、僕はコピーライターになりたい。とにかく宣伝の仕事をしたいんだ」と言ったら、「じゃあ、中浦電気で宣伝部長を募集しているから来ないか」といわれて、すごくかつこよく言うと言引き抜かれたんです。

時二三才、小さい会社ではあります。部を七名持って僕のサラリーマン人生はじまったんです。

◆ いきなり部長からですか? そうです。ですから、平社員の実験はないんですよ。そのことはとても不幸なことだといふのは後でわかりましたけど(笑)。上司との距離感をどうやってはかつたらいいかとか、自分の思いを会社にアピールするときは、どういう手立てを踏んだら波乱が起きないかとか、そういう手順が一切カットアウトされた状態で部長職に入ったわけです。

僕は小学校五年のときに父親を亡くしているの、サラリーマンたるものの心得を、父親の後ろ姿を見ながら勉強できる環境にいなかったんですね。そんなわけで、あるべきサラリーマンの姿がわからないままに社会にでた。松下にせっかく入ったのに、すぐ辞表を書くのは馬鹿ものだといふことで、もう家族、親族に人扱いにされたんです。唯一支えてくれたのは、僕の当時恋人だった今の家内ですけれども。「まあ、やりたいようにやれば」ということで、「とにかくあなたの才能は、たぶん人事には向いてない。宣伝のほうがいいと思う」といつてくれた。超一流の松下電器という会社と秋葉原の小さな、当時年商八〇

億ぐらいの会社は比較できないですけど、宣伝というやりたいことがやれるという意味では転職はオーケーでした。

宣伝は実に楽しい仕事でした。

―「鶏口となるも、牛後となるなかれ」ということですね。

◆ そうそう、そうです。鶏口の鶏も小さな鶏でしたけどね(笑)。

― 当時の中浦電気は社員は何人ぐらいいらしたんですか。

◆ 一二〇名ぐらいです。

― それじゃ、その中で二三歳の部長さんといったら珍しかったです。

◆ いや、珍しいというよりも、当時は秋葉原という街そのものに、大学を出て就職をした人なんか非常に少なかったんですよ。とりわけ国立を出ているというのがとても珍しくて、現場からは非常に期待されるわけね。これも、僕にとっては非常にマイナスだったんです。あまりの期待を受けるんで。

― 過剰な期待(笑)。でもご希望どおりの宣伝に入られたわけ



ですけれどもいかがでしたか?

◆ 宣伝の仕事は、ものを書いたり、絵や企画を評価したり、あるいはプロデュースしたりで、僕には非常に向いていましたね。まず最初にやったのは、『暮らしのチャンネル』というハウス・オーガンといいますが、当時、資生堂の『花椿』、カネボウの『ベル』がPR誌としては有名だったですね。あれに近い形のPR誌をつくりました。それを中浦電気の固定客の方に、当時六万部ずつ月刊で発行しました。

それにはもちろんいろいろな売り出しのご案内とかも載せていましたけど、基本的には、今で言うフリーペーパーみたいな感じで、電気製品を使う楽しみとか、その製品が活かされているシーンとかを紹介するんです。僕が編集長をやって、例えば昔の古い電気製品の写真を撮ってきてくれとか、それが使われ続けているシーンを見てきてくれとか、普通なら外部の人にお願ひするわけですが、外注するとカネがかかるので、何とか



社内でも全部制作しようとするわけでは。

ある時は、僕はものを書くのが好きだったので、二ヶ月に一回ぐらい自作の短編小説を載せていたんですよ。そうすれば、経費はタダだし。それに自分が書くわけだから。お客さんの反応が直に感じられる。「とてもおもしろい小説だった」とかいってかなり人気がありましたよ。今でも業界誌の一部では「当時山下さんが書いた小説を読んで、中浦電気はいい会社だなと思っただよ」と言ってくれる人もまだ残っているぐらいです。

そういう雑誌を初めて自分の手でゼロからつくりあげたときは、涙が出るぐらい感激しました。そんな時はどんなに夜中まで仕事をしていても、楽しかったですね。

それから、「ナカウラスクリンミュージック」という映画音楽の番組をFM東京で放送していたんですけれども、映画評論家の小森和子さんを起用して、映画に使われた有名な映画音楽を紹介しながら、その音楽を楽しむために中浦電気のこういうラジカセを買ってくださいとか、こういうステレオがいいですよ

けど。「とにかくおまえにまかせろ。カネは出しても、口は出さない」ということを言ってくれたので、ますます「悪く言う」と増長して、勝手気ままなことをやっていたわけです（笑）。

一番ダイナミックだったのは、秋葉原にある中浦電気の建物そのものに、何か思いきったデコレーションをつけることによって差別化したいなとほんやり思っているときに、建物全体をブルーニユの森にしてしまおうと考えたわけです。そこでカメラマンと相談して、パリに行ったんです。現地でモデルを雇って、ブルーニユの森の中で妖精が遊んでいるようなシーンをいっぱい撮影して、それを大きなパネルにして壁に貼って、「ブルーニユの森キャンペーン」をやったんですよ。造花みたいなものをたくさん買ってきて、店をデコレーションして、それは秋葉原でも有名になりましたね。とてもないやつが来た。建物そのものを森にしちゃったよ。

そういうのってとても楽しい。えらい時間もかかるし、休みも取れないこともありましたが、やっていることはすごいエキサイティングで楽しい。だから、宣伝で正解だった。天職を得たというような感じだったですね。

中浦電気の創業者は中浦芳人さんという人なんです

でも、創業者の社長から「おまえは本当にやりたいことをや

って、自分は気持ちいいんだろ。だけど、それじゃ偉くなれませんか」と。つまり、副社長とか専務とかになれない。やっぱり電気屋は電気を売るというのがメインなんだから、そのセクシオンで活躍しない限り、いつまでたっても宣伝部長止まりだよと。「それでいいじゃないですか。僕はその道を選んできたんだから」と言ったんだけど、会社がそうはさせない。なぜならば、給料を高く払っているんだから、もうちょっと貢献してくれと言われて、総武線のガード下にあった小さな支店の店長を二年七ヶ月やりました。

そのとき初めて電気屋としてモノを売ることの難しさとか、お客様を大切にする意味合いとかを勉強ができたと思っています。自分で営業をやって、モノを売って、クレームを受けて、実際の現場を踏んできたので、二年七ヶ月でしたけど、のちに営業部長や常務になったときそのときの経験が後で役に立ちました。

—— 朝日無線さんと中浦電気さんとが合併なさったのは？

◆ 平成一〇年。そのときには朝日無線じゃなくて、もうラオックスになっていました。統合後も、まだ中浦電気は一年間そのまま子会社として残っていましたので、僕は中浦の常務営業本部長をそのまま続けていたんです

すが、ラオックスの当時の社長から「社員として転籍しろ」と、平成一一年にラオックスの社員になったんです。ですから、僕はラオックスの社員としては、社歴は丸八年。ラオックスでは、広報IR室の責任者になりました。

—— 社長に抜擢されたときはびっくりなさいました？

◆ それはもうびっくりしました。びっくりしたというのももちろんですが、もう一つはどのようなかと思いましたが。それは、ラオックスという会社が隆盛を極めていて、マネージャーが誰になろうと、店全体がうまく動いていて、とてもいい関係だったら、誰でも喜んでなると思うんですけれども、経営状態は、大変厳しい状況になっていて、誰が社長になっても、再建していくのはとても大きなストレスがかかるんです。

そういう環境にある中で、ずっと宣伝や広報の仕事をやってきた人間が、経営全体の責任者になって、会社を大きく跳躍させなければいけない。そういう力量が本当に自分にあるのかというおそれもありましたね。自分でも少しミステイクすると、今でも正社員だけで700人以上、ご家族とかパート、アルバイトを入れていくと数千名の人々を路頭に迷わせることになってしまふ。その責任の重さ

るや、本当に毎日髪の毛が百本ずつ抜けていく。本当ですよ。でも、まだたくさんおありになるから(笑)。

◆ いえいえ、とんでもない(爆笑)。

— じゃ、今は舵取りで一所懸命ですね。

◆ そうですね。ただ、僕はラオックスに入ってから、ずっと広報の仕事でしたが、中浦電気で営業本部長をやっていた時代のメーカーさんとおつき合いはずっとそのまま緊密にやっていました。で、その頃の担当だった方が偉くなって、たとえば松下電器の牛丸副社長さんやWOWOWの佐久間相談役とか、トップクラスの方たちに、頑張れというエールを送ってもらえるので、そういう点では非常に幸せです。

クマ退治の商品選び

— 社長になられて、何か新しいことをなさいましたか。

◆ 従来の店のオペレーションに関しては、本部強力主導型の考え方だったのですが、今考えているのは、もっといろいろなオペレーションのやり方をボトムアップでやっていくという必要性が大切だと思っています。それがお店を回っているとわかるんです。例えばこういうことがあったんですよ。

僕はラオックスの社長になっ

たと同時に、子会社を含めて五つの会社の社長になっているんですけれども、長野にラオックスヒナタという子会社があつてその須坂店の店長さんとお話をしている、「何か困ったことはないですか」と言うと、「ラジオの展示ができません」と。「どうしてですか」と言ったら、目の前にiPodとかMDウォークマンとか、いわゆる普通のトランジスタラジオをいっぱい飾っているじゃないか。「なんでこれが気に食わないんだ? これでは本部を選んでメーカーさんと商談して、原価を安くしてもらって、みんなでたくさん売ろうね」という商品がいっぱいあるじゃない」と。そうじゃないんだと。須坂というところはクマが出るんだ。農園というか畑や田んぼが広がっている、そこにクマが出てくるので、クマ退治のために、夜中でもラジオをつけ放しにして、そこに人がいるなと思わせるんですって。だから大きな音が出るラジオが欲しい。なおかつ、田舎ですから、農道にパラソルというか傘をさして、その下にラジオを置いて、ガンガン一晩中鳴らすので、夜露には濡れるわ、雨に打たれるわで、当然一年も持たない。だから、安くて、大きくて、安定性があるラジオが欲しいんです。なるほど、まさかクマ退治用のラジオを仕入れようというのは東京

の感覚にはないねということ、じゃ、須坂店のためにはクマ退治のラジオを仕入れよう。

今までなぜそれができなかったかというと、さっき申し上げたように、あくまでも本部強力主導型の集中オペレーションをやっていることとすると、本部が選んだ商品以外の商品をお店に並べるのは、これは禁止手なんですよ。だけど、電気屋は売場によって与えられた案件が違うんですね。須坂店はクマ退治のための商品が必要だと。それから同じ須坂店で、ぜひ富士通のパソコンをたくさん並べてほしいと。売れ筋からいったらNEC、東芝、MACだよ。どうして富士通なの? というと、近くに富士通の工場がありますから。これはやっぱりまず富士通だよ。

つまり、言いたいことは何かというと、個々の店によって売るべき商品のアイテムが違ってくるということ。だからどれに力点を置いていっただけいいかというのも当然違う。それを吸い上げていって、最大公約数のものは本部で商談して、個々のあまりにも違った与件のものは、その店々で相談する。そういうようなマネジメントというか、マーチャндаイジングの仕組みを変えていくというのが、まずは今やっていることですね。

それと、我々はお客さんのた

めに商売をしているわけで、消費者の方に喜んでもらえるような商品をいかにセレクトして提案するかというのは、僕らにとってのミッションなわけです。

新しい伝説を作るキーワード

そのためのキーワードが幾つかありますが、社員に今いろいろ勉強をしてもらっているのは、ハンディキャップのある人に、バリアフリーになるようなお手伝いができる商品をまず選びなさい。それだけを売るんじゃないんですよ。そういう考え方で商品を見ていくと、必ず健常者にとっても素晴らしい商品があるはずなんです。そういったものを探さないとい。

誰にも負けない商品知識をつけなければならぬ。だけど、何をもちて誰にも負けない商品知識をつける対象とするかというの、バリアフリーになる、つまりハンディキャップのある人を助けるような要素を持っている商品かどうかで選びなさいという話をしているんです。

例えばこういうことがありました。つい先週の話ですけども、荻窪店の店長さんの週報に書いてあったのですが、全盲のお客さんが来られて、お釜が欲しいんですが、音声でガイダンスしてくれるお釜がありませんか。このボタンを押したら「炊飯が始まりました」とか、この

金型用部品・パンチ・ピン

株式会社 **スガモ技研**

代表取締役 **福田邦昭** (平戸市大川原町出身)

〒341-0012 埼玉県三郷市半田1028-4

電話 0489 (57) 4111 (代)

FAX 0489 (57) 4123

営業品目

冷蔵鍛造パンチピン

モールド型用コアーピン

プレス型用パンチピン

プリント基板金型用パンチピン

その他

ボタンを押したら「予約タイムで今時間を設定しています。今二時です」とか、声でガイダンスするようなジャー釜がありませんかと。ただ、予算は二万円ですという。

店長もそんな商品があるとは実は知らなくて、そのお客さんの目の前で調べたら、三洋電機と松下電器にはそういう商品が出ていることがわかった。だいたい最高価格に近い商品だったので、ご予算と合わなくて、お客さんは即決できませんでした。でも、そこまでやってくれて非常に嬉しいということで、次に必ず買いに来ます、という報告が上がってきました。

僕は全盲の方だけを当然相手にしているわけではありませんが、そういう要素がリクエストされたときに、本当に世の中にそういう商品があるのかどうか調べるだけでも、ものすごく商品知識がついてくる。たぶんその店員は、ジャー釜について相当な知識を得たはずなんです。ですから、普通の健常者が来られても、「暗いところでお使いになるんですけど、音声ガイドが付いていますよ」と言うだけでちよつと差別化できるんですね。そういった意味で消費者の立場に立って消費者に本当に提案できるような商品を探しましょうよという売り方を、今、一生懸命訓練しているところで

す。
— そういう工夫で、これからまたラオックスが大きく変わっていくわけですね。楽しみですね。

◆ そうですね。新しい伝説をつくっていくかと思っているのです。そういう言い方をしたのは、かつて当社には秋葉原にザ・コンピュータ館という千坪のコンピュータ専門店がありまして、これは事情があつて九月二〇日で閉店するんですがそれがあるということが、ラオックスの伝説だった。一九九〇年できて、売上が日本一になったんですね。ビル・ゲイツはやって来るわ、ヒューレット・パッカードの会長は来るわ、デルコンピュータの会長が講演をするわ：というぐらいのステイタスがあつたんですけれども、それは、当時は、コンピュータの専門館としては建物が大きくて、非常にたくさん売上があつて、ないものはないというぐらい品揃えがあつたというので伝説が生まれた。
一階にまずコンピュータの書籍を置いてみて、お客さんを上層階に上げるといふ仕組みを、他の店のコンピュータの専門店も全部適用した。いわゆるデファクトスタンダードをつくっていったわけですけど。それがラオックスの伝説だった。
今度、そのザ・コンピュータ

館を閉めたときにそれに変わる新たな伝説をつくらなければいけないんですが、その伝説をつくるキーワードが、さつき申し上げた、ハンディキャップのある人をいかに救うかということで、この視点でお客さんと接客をすれば、非常にフレンドリーな、親切な接客をせざるを得なくなっていくわけです。ラオックスのお店に行ったら、とても親切で、よくわからない人にもコンピュータが使えるようにしてもらえたと。とにかくちよつと重い商品を買った場合は、トースターであろうがお釜であろうが、お客さんについて行って配達してくれたとか、そういう一つの噂とか：話を積み重ねていくことによってラオックスはちよつと違う店だなという伝説を新しく生み出そうということを今やっているわけです。

サーフィン歴六年

— そういうことをおやりになつて、大変お忙しいとは思いますが、最近のご趣味は？

◆ 今はサーフィンです。藤沢市に住んでいるので：。自転車にサーフボードをくくりつけて海まで行くのに一〇分かならないところに住んでいるんです。例えばゴルフもやりませんが、海だとスキューバダイビングもやるんですが、家内が一番喜ぶ

www.guenbs.com





のがサーフィンなんです。なぜかという、湘南海岸ではシーズンのときにはきまりがあつて、海水浴の人たちが優先なので、サーフィンをやる人は、朝は午前八時まで、夕方は午後五時以降ならやっていいと云うことなので、僕は休みの日は五時頃に起きて海に入って、八時にはあがつて来るわけです。

だから女房は、僕を使いやすいですよ。一緒にスパーに行こうとか、芝刈りをやってくれとかね、天井の照明をつけ換えるとか便利に使える。ゴルフに行ったら夕方まで帰って来ないわけですから。だから、サーフィンをやりなさいと(笑)。

もう、六年も続いています。

— なかなか体力を使いますでしょう? 関節のほうには大丈夫なんですか。

◆ それはおかげさまで大丈夫です。今、松下電器がつくった「ジョーバ」という商品がよく売れているのはご存じだと思います。馬に乗る椅子みたいなものがあるでしょう。あれは、腰をこうやって動かすから



腰痛になりませんか? と言っていますが、あれと同じ理屈で、サーフィンの場合、波を待っているときには、板の上で静かにしているように見えるんだけど、本当は忙しいんですよ。足をこらやして倒れないようにする。波が来たら、波を乗り越えてフラットにしなきゃいけない。となると、結構腰と足を動かして、腰痛予防にね(笑)。

波に乗ろうとしている瞬間は、頭の中は空白ですから、とにかくこの波に乗るかどうかし考えてないので、とてもストレス発散になる。いい気分転換ですよ。右手には富士山、左手に江ノ島が見える、湘南海岸ですからね。早起きはするし。

— 昼間は奥様孝行で(笑)。

◆ そして、夜はお酒をたくさん飲むと(笑)。

セブンナイスガイズたち

— ところで、最近は長崎に帰られましたか?

◆ 僕は梅ヶ崎中学のときのよく一緒にキャンプに行っていた

仲間がいて、七名なので「セブンナイスガイズ」というんです(笑)。が、その人たちと卒業のときに、六〇歳になったら、いかなるところに住んでいようと、必ず長崎に集まろうと言っていた連中が八月三日に集まったんです。

— 皆さん一人も欠けずには?

◆ 一人も欠けてなかったですね。七名のうち二名が、僕を含めて会社の役員をやっていましたけど、あとは基本的にはもう定年を迎えて、毎日が日曜日の状態ですよ。でも一人だけ生活保護を受けているというので、「何の生活保護を受けているんだ?」と聴いたら、いささか精神的に病気になるってしまつて、躁鬱病というんですかね。それで、それで一種の年金というか生活保護のお金が出るらしいんですよ。だから生活はできるんだと。「セブンナイスガイズ」の宴会にも参加できるわけだから、べつに食うのに困らない状態なんです。伊王島のホテルにも泊まったし、ある意味一番そいつが幸せなのかなと思いましたよ。

— もうあくせくしないでのんびりできるという意味ではそうかもしれないですね(笑)。長崎にはそんな風に、ときどきお帰りになっているんですか。

◆ いいえ、そのとき帰ったので、もう何年ぶりでしょう。五

年ぶりぐらいじゃないですかね。もう両親共に早く亡くしたので、お墓はこちらの大宮にあるんですよ。兄弟も全部関東に住んでいるもので。向こうにいるのは友人だけです。だから、なかなかチャンスがないですね。

— 五年ぶりにお帰りになつて、長崎をどんなふうにお感じになりましたか。

◆ すごい活気を感じましたね。もともと長崎というと三菱の街なので、三菱造船所がぐあいが悪いと、街自体が静かになってしまう街だけど、その「セブンナイスガイズ」のうちの一人は三菱造船に長くいた人間なんですけど。彼に言わせると、随分受注量が増えてきていて、三菱全体が今景気いいそうです。街がどんどんきれいになっていて、女神大橋だったかな。すごい大きな橋が架かっていましたね。そこもドライブしてきましたけど、あんまり人通ってないんですね。余裕でつくつてあるというか。(笑)。

それと、長嶋一茂が宣伝してましたけど、たくさんマンション群ができてきて、めちゃくちゃ安いんですね。三DKで二七〇〇万とか、海が見えるところですけど。たくさん売りに出ていましたね。

それから、長崎の県立美術館がすごく大きくなっていて、あれもすごいな。僕の家内は、同

じ長崎大学教育学部の美術科にいたので、前の県立美術館で、仲間と一緒にときどき展覧会をやったりしていたのですが、「エッここが県立美術館!」と驚いていました。すごい立派な建物でしたね。

— 長崎に何かアドバイスを。

◆ もともととても愛している街なので、こうやつたらもっといいということはないぐらいに素晴らしい街だと思っています。

今、九州がとてもスポーツライトを浴びていて、宮崎、佐賀がそうです。かつては、九州に旅行に行きたいとかいうと、異国情緒の街、長崎がまずあつたじゃないですか。今は、そこまでのアドバンテージがないみたいで、パワーバランス的に長崎が少し落ちてきたんじゃないかなと思いますね。

今、長崎ランタンフェスティバルとかやっていますが、長崎でそういう祭があるのを、長崎東高のメールネットワークで知ったんだけど、ランタン祭ってなんだと思って調べたら、あ、こういうことをやっているのかと驚きました。

それから、「長崎楽会」ってやっていますよね。あれはいい意味でマイナーな集まりなのでしょうけど、もっと外部に長崎の素晴らしさをアピールしたらいいと思いますね。

— ありがとうございます

「講演録」

棚田から世界が見える

日本棚田学会理事 安井一臣



「安井一臣氏のプロフィール」
昭和十七年大村生まれ。大村高校卒。
佐賀大学農学部農芸化学科卒業、ドイ
ツ「バイエル社」の日本法人（現社名
バイエルクロップサイエンス（株））に
入社。平成十四年定年退職後、現在、
同研究開発技術顧問、日本棚田学会理
事、NPO法人棚田ネットワーク理事、
全国棚田連絡協議会特別委員、佐賀大
学・東京オフィス参与など就任

皆さまこんばんは。ただ今ご紹介をいただきました安井一臣でございます。本日は長崎県ゆかりの皆さま方に棚田の話をするという機会をいただきありがとうございます。

近年、棚田とか里山といった言葉はマスコミなどでも普通に使われるようになりました。私は大村市の出身であります。子供時代を過ごしたのは、まさにこの棚田・里山地域でありました。また、社会に出ましてからは、ドイツに本部を置くバイエルという化学会社の農業関連分野を担当する「バイエルクロップサイエンス（株）」と申します会社で、主に日本をはじめ、アジア・モンスーン地域の稲作用除草剤の研究・開発に携わってまいりました。したがって、社会に出ましてからも、稲作や棚田とは長年にわたって関わりを持ちながらサラリーマン人生を送ってきました。本日はこのような個人的な関わりも含めまして、少し棚田の話をさせていただきます。

ふるさとの棚田

近年、「日本の〇〇百選」という言葉を耳にすることが多くあります。皆さまの中には既にご存知の方も多いかと存じますが、棚田にも、「日本の棚田百選」というものがございいます。百選と申しまして、実際には134ヶ所の棚田が選ばれておりますが、この内6つは長崎県内にあります。最初に、それらの棚田の写真をいくつか見ていただきたいと思います。

まず最初は、東彼杵郡波佐見町にあります「鬼木棚田」です（写真1）。佐賀県との県境の山系の山肌にゆったりと開けた棚田です。お茶畑との絶妙なマッチングも見どころです。この棚田のすぐ隣は「中尾山」という陶芸の里として、棚田での米作り体験と陶芸を組み合わせた、一般市民参加型の地域起こし[※]が活発なところでもあります。

次は、波佐見町から山一つ隔てた東彼杵郡川棚町の「日向棚田」です（写真2）。九州のマッター

ホルンとも呼ばれる地元の名峰「虚空蔵山」を源とする清流・木場川の両岸に美しい石垣棚田が延々と続いておりまして、日向棚田はその中心的存在です。現在、県北地域への水の供給基地として工事が進んでおります石木ダムが完成しますと、この棚田の一部は湖底に沈みます。ダム建設に伴って離農した農家の住居跡や、放棄され、荒れ果てていく棚田もそこかしこに散見され、私はここを訪れるたびに胸に迫るものを感じます。

これは、松浦市（旧北松浦郡福島町）の「土谷棚田」という海に面した棚田です（写真3）。私のふるさとびいき[※]ということもありましようが、この棚田の景観は、海に面する棚田としては日本でもベストスリーに入ると思っております。

この棚田では、地域起こしの一環として、毎年、火祭りという行事を行っております。それは、田んぼの畦に約2000本の松明を灯して、一夜を楽しむという催し

であります。例年2千人以上の観光客が集まる年中行事になっております（写真4）。海の方へには、平戸、生月、的山大島などの島々も望めます。

次は、長崎市（旧西彼杵郡外海町）の「大中尾棚田」です（写真5 地元棚田提供）。規模はそれほど大きくないのですが、長崎市という中核都市の地の利もあり、棚田オーナーによる稲作りや市民ボランティアによる棚田保全活動も活発なところです。長崎市内から旧外海町への道すがら望む角力灘の風景もたいへん素晴らしい、遠藤周作の名著「沈黙」の舞台としても有名で、キリスト教文化の香りが漂う地域でもあります。

次は雲仙市（旧南高来郡千々石町）の「岳棚田」です（写真6）。雲仙山系の急斜面に刻まれた美しい石垣の棚田です。また、旧千々石町内には、棚田だけでなく農家の屋敷周りなどにもきれいな石垣が多く見られ、地域全体が石垣文化の町と呼んでも過言でないと思っております。只今、文化庁が定める

「日本を代表する文化的景観」の指定に向けて、石垣文化の伝統に基づきながらも、心癒される景観の中で、人々が心地よく暮らせるような新しい町づくり計画が進んでおります。

ここまで故郷の棚田を見ていただきましたが、いかがでしたでしょうか。「懐かしい風景」とか「気持ち安らぐ癒しの景観」などとお感じの方も多いことと思います。

本年（2008）の10月16・18日、長崎市の大中尾棚田、雲仙市の岳棚田をメイン会場として、第14回全国棚田サミットが両市の主催で行われます。一般市民参加型の楽しい催しや棚田地域の活性化を目指した活発な議論などが計画中です。この機会に、ぜひ皆さまご都合をつけて、ふるさとの棚田巡りなどをお楽しみください。ようこそ案内いたします。

日本各地の棚田

これまで故郷・長崎県内の棚田を見ていただきましたが、言うまでもなく棚田は日本各地にあります。一般に、新潟県を中心とする北陸地方、岡山県・鳥取県・島根県にまたがる地域、大分県を中心に福岡県と宮崎県の一部を含む地域を日本の三大棚田の果と申します。しかし、実際に各地を歩いてみますと、長野県から岐阜県にかけての地域と、故郷の長崎県から佐賀県にかけての地域にも、たく

さんの棚田がありますので、私はこの二地域を含めて、日本の五大棚田地帯と呼んでいます。その代表例をいくつかお目にかけます。これは、佐賀県唐津市（旧肥前町）の「大浦棚田」です（写真7）。ここは風景も美しいのですが、百選の棚田の中でも大規模の棚田としても有名です。

これは長崎の次の年、2009年に全国棚田サミットが計画されています新潟県十日町市（旧松代町）の「星峠棚田」です（写真8）。冬は4〜5mの豪雪に覆われるところ。後方にアルプスの山々が見えます。また、田んぼの中に杉木立が点在する「頸城地方」特有の景観を見ることが出来ます。

これは長野県小谷村の名も無き棚田です（写真9）。黄金色の稲穂と休耕田に作っている蕎麦の白い花がよくマッチする風景ですが、よくよく見ますと何年間も耕作が放棄されて、だんだん山に還っている田んぼが点在していることがわかります。

申し遅れましたが、静岡と糸魚川を結ぶ中央構造線を境にして、西日本は石垣の棚田、東日本は土坡と呼びますが土手の棚田が主流です。

話は少し変わりますが、「田毎の月」という言葉をご存知の方も多いいと思います。信州・姨捨（現長野県千曲市）の棚田がこの言葉の発祥の地です。松尾芭蕉の更科紀行にも登場しますし、国の名勝

指定を受けたことでも有名な棚田です。これは、地元の名利・長楽寺の境内から見たという田毎の月です（図1）。しかし、実際にはこのような風景は見えません。田んぼに映る月は一つです。では、なぜ「田毎の月」という言葉が生まれたかと申しますと、月見をする人が立っている場所を移動しますと、それに伴って、田んぼに映る月も次々と隣の田んぼに移ります。このような情景を昔の文人たちが、田毎の月というイメージに仕上げたものと思われます。

ここまで日本各地の棚田をいくつか見ていただきました。言うまでもなく棚田は、山の斜面に拓かれた段々の田んぼです。一粒でも多くの米を作りたい、食べたいという先祖の思いを象徴する場でもあります。

皆さまは「ふるさと」という言葉から、どのような風景をイメージするでしょうか。もう数年前になりますが、ある食品会社から「ふるさと」という言葉からどんな風景をイメージするか、という大掛かりなアンケート調査を行ったことがありました。その結果、第一位が「田んぼ」、それに「小川、山、海、森・林」、という言葉が続きました。菜の花畑に入口薄れ……、兎追いしかの山……など、日本唱歌の中の風景が連想されます。

このアンケートの結果などから、私たちの心の奥には、棚田や

里山を中心とする風景が刻み込まれていると言えるように思います。別の言い方をしますと、棚田は私たち日本人の心の原風景と言っても過言ではないと思います。繰り返しになりますが、田んぼの基本は米を作る場です。ここで祖先たちが長年にわたり営々と米を作り続けた結果、それぞれの地域に適した食習慣や生活様式などが自然発生的に生まれ、それらが統合されて、瑞穂の国と言う独特の稲作文化を築き上げたと言えるわけがあります。

農林業の多面的機能

近年、田んぼは米を作る場というだけでなく、米をすることによって生れるいろいろな機能が注目されるようになってきました。例えて申しますと、梅雨時の雨を貯める、地下水を補給する、山の斜面の土砂崩れを防ぐ、多くの生き物の棲家となる、美しい風景を醸し出す等の機能であります。これらの機能を、農林業が持つ「多面的機能」あるいは「外部効果」と呼んでいます。この機能がどのくらいの価値があるのかという点につき、つくば市にある（独）農業工学研究所が試算した結果、およそ48兆円と算出されました。農家レベルでの農産物総生産額が年間約10兆円ですので、日本の農業は、その生産性よりも環境や国土保全機能の価値が大きいという注目すべき結果でした。現

在、WTOをはじめとする諸外国との貿易自由化交渉が盛んに進められていますが、私個人としましては、お金をいくら払っても輸入することができない、これらの機能も忘れてはならないと思います。ここまで、日本各地の棚田やその付加的な機能について話をさせていただきました。

外国の棚田

言うまでもなく米という食べものは日本独特のものではありません。広くアジア・モンスーン地域に暮らす人たちに共通する主食です。従いまして、棚田もアジア各地にたくさんあります。その一例として、中国・雲南省の棚田の写真を何枚かご紹介いたします。

これは雲南省・元陽県で世界遺産としても有名な「猛品の棚田」です（写真10）。谷底から上の方の田んぼまでの高低差は5〜6百メートルあります。仮に一段一段の高度差を2mとしますと、約300段ということになります。日本では棚田のことを千枚田とも呼びますが、雲南省の棚田はどれも規模が大きく、ここでは何万枚あるかわかりません。まさに、「耕して天に至る」という言葉を実感できます。

この地方では、かつて日本でも見られたような家畜を使った農業を、今でも日常的に見ることが出来ます（写真11）。近くの市場を覗いてみますと、米だけでなく、

棚田やその周辺でとれる鮒や鯉などの淡水魚やその干物（写真12）、田んぼや家の周りで放し飼いにして育てたアヒルやニワトリの丸焼き、田の畦などに生える種々雑多な野草などが、日常的な食材として並べられていました。かつての日本も同様だったのだと思います。田んぼはそこに暮らす人々に、米だけでなく多くの食べものをもたらししてくれる恵みの場であることを改めて理解した次第でした。先ほど、日本各地の棚田を紹介した折にも触れましたが、国土や水資源、環境の保全など、棚田が持つ多面的機能はここでも計り知れないほど大きなことは言うまでもありません。そこで暮らしている人たちは特に意識している訳ではありませんが、棚田での米作り、広い意味での水田稲作という生業は、知らず知らずのうちに国土や環境の保全、地域社会の維持などに大きな貢献をしているわけであります。

田んぼの生きものたち

またまた話は変わりますが、田んぼの多面的機能の一つの柱として「多様な生きもの棲家となる」というのがあります。これを一般的に「生物多様性保全機能」と呼んでいます。これに関連しまして、私はあるボランティア活動に参加しています。それは、栃木県茂木町の棚田で進めている「ハッチョウトンボ・プロジェクト」という

ものであります。ハッチョウトンボは世界一小さいトンボでありまして、体長は16〜18ミリ程です(写真13)。このトンボは、北海道を除く全国各地で局的に生息していますが、その環境はきれいな水が染み出るジメジメとした浅水湿地です。言い換えますと、棚田での米作りをやめて間もなくの休耕田のような所が大好きなトンボです。

田んぼはいったん休耕しますと、徐々に雑草に覆われたり、畦が崩れたり、水が涸れたりして荒れ果て、数年を経ずして回復困難な状態になってしまいます。しかしながら、今日、日本の田んぼは多くの社会的要因による米余りで、その約4割が転作、休耕あるいは耕作放棄という状況にあります。このような田んぼを一ヶ所に集めたと仮定しますと、九州、四国、中国地方全部の田んぼの面積に相当します。特に中山間棚田地域では、耕作放棄率60%、70%という所も珍しくありません。

その一方、世界的な視野で将来の食料事情を見渡しますと、国内の田んぼを荒らしながら、世界中から食べものをかき集めるということ、いつまでも続けることはできないのは明らかであります。

そこで、米を作らなくても棚田を保全するよい方法はないかと検討を続けました結果、2〜3年に一度代かきして年中水を貯めておけば、いい状態で田んぼを保全で

きるということがわかりました。これを専門用語で「水張り休耕」といいますが、この水張り休耕をしておけば、米を作りたいときにはいつでも田んぼに戻せる、ということでもあります。しかし、私たちのような外部の人間が勝手に、「水張り休耕は棚田の保全に有効だ!」と叫んでも、その作業を農家に押しつけることはできません。そこで考えたのが、都市住民を中心としたボランティアによる、「水張り休耕田へのハッチョウトンボ呼び寄せ作戦」であります。この活動を始めて既に三年が経過しましたが、残念ながら、まだこのトンボの呼び寄せには成功しておりません。しかし、この活動現場から山ひとつ隔てた集落の、百選にもなっている「石畑棚田」の中の休耕田にはたくさん生息していますので、そのうち成功するだろうと思いつながら活動を続けているところなのです。

とは申しまして、水張り休耕をしながら、ハッチョウトンボがやって来てくれるのをただ黙って待っているだけでは面白くありませんし、活動そのものがなかなか前に進みません。その一方、田んぼはトンボだけでなく、いろいろな生き物の宝庫といわれます。そこで、この棚田にはどんな生き物が住んでいるのか、季節ごとに調査を進めております。尚、この活動の参加者は、幼稚園児、小・中学生、高校・大学生、一般市民、

地元の農家など種々まちまちです。

この調査で生息を確認しました水生生物を少しご紹介いたしますと、背泳ぎが得意なマツモムシ、水生昆虫の王者といわれるタガメ、水中の忍者と例えられるタイコウチなどです(写真14)。この他に、トンボが26種類、カエルやアカハライモリなどの両生類が5種類確認されています。この中には、環境省が指定する希少種(絶滅の恐れがある生き物)も数種含まれております。

このような調査を通じて、幼稚園児や小学校低学年の子どもたちは、「食べものは全て生き物」ということを肌で学んでくれます。さらに、学年や年齢が上がるにしたがって、食物連鎖、生物多様性、農林業の多面的機能などへの理解が深まり、日本と世界の食糧事情や環境・資源・気候変動問題などへ関心が広がってまいります。また、高校生や大学生クラスになりますと、この調査結果を文化祭などで発表したり、卒業論文に仕上げていたりいたします。

明るい将来に向かって

ここで、わが国の食糧事情について少し触れてみますと、2006年の国内自給率は39%で、ついに40%ラインを割り込みました。その一方で、40%もの田んぼを荒らしながら世界中から食べものを買い集めているわけでありま

す。また、先ほども述べましたように、多面的機能はどんなにお金を積んでも輸入できません。さらに、早ければ2015年頃、遅くとも2025年頃までには、「わが国も巻き込んだ世界規模での食糧不足」が懸念されていることも、忘れてはなりません。

国外に目を転じまして、世界人口はさらに増え続け、現在の65億人から今世紀の中頃には90億人に達しそうな勢いでありま

す。また、中国やインドなどに代表される中進国の経済成長と食糧消費の増大、温暖化をはじめとする気候変動など、将来の食糧事情を取巻く懸念材料は目白押しであります。それに加えて、昨今のバイオ燃料ブームは、この懸念にさらなる拍車をかけています。

- 私なりに取りまとめますと、次のようになります。
 - 人は有史以来、食べものを食べないで生きてきた歴史はない。
 - 自然の恵みを受けないで生きてきた歴史はない。
 - 自然の災害を受けないで生きてきた歴史はない。
 - 周りの人と助け合わないで生きてきた歴史はない。
 - 他の生き物と共存しないで生きてきた歴史はない。
- 以上のような観点から人類が生きてきた歴史を改めて見つめてみると、今、私たちは何を考え、何を行動に移すべきか、ということが具体的な姿として見えてくるように思います。
- 私は、21世紀を象徴する最重要キーワードのひとつは「持続可能な社会の構築」ということだと思

います。今ご紹介いたしましたような、私どもの「棚田の保全や田んぼの生きもの調査」それ自体は、取るに足りないような小さな活動に過ぎません。しかし、このような小さな活動が、「持続可能な社会の構築」という方向に舵を切り替える最初の一步になると信じながら活動を続けているところ

です。

この数年の間にだんだん顕在化してきました「地球温暖化問題」にしましても、各方面でいろいろな対策がとられるようになってはおりますが、これによるマイナス

影響がピークに達するのは2040年から50年頃と予測されています。このことは、これから生まれてくる子孫たちを含めた若い世代の人たちが、私たちのような中高年世代よりも大きな影響を受けるということを意味します。

米をはじめとする私たちの食べものにつまみしても、楽観できない状況になってきました。田んぼは環境や国土の保全という機能を果たしながら、米という食べものを長年にわたり作り続けることができる、かけがえのない私たちの宝です。世界人口の2/3はアジア・モンスーン地域に集中しています。このようなことを考えますと、田んぼと米が地球の将来を握っていると言っても過言ではないかもしれません。

以上のように、食糧に関する将来像は決して楽観できる状況ではありませんが、後世の子孫たちを、食べる米で困らせてはならない、というのが私の強い思いであります。

何はともあれ、ここにご参会の皆様、棚田という現場を是非一度見ていただければと願っております。ご興味を持っていただいた方々がおられましたら、いつでも私がお案内いたします。

話題がこちらに飛び、まとまりのない話になりましたが、私の話はこれで終わりとさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。



写真13
ハッチョウトンボ



写真9
無名の棚田 (長野県小谷村)



写真5
大中尾棚田 (長崎市)



写真1
鬼木棚田 (波佐見町)



写真14
田んぼの生きもの



写真10
猛品棚田 (中国雲南省)



写真6
岳棚田 (雲仙市)



写真2
日向棚田 (川棚町)



図1
田毎の月のイメージ



写真11
中国の農業風景 (雲南省)



写真7
大浦棚田 (唐津市)



写真3
土谷棚田 (松浦市)



講演風景



写真12
田んぼの恵み (雲南省)



写真8
峠棚田 (十日町市)



写真4
土谷棚田の火祭り (松浦市)

長崎雑感

長崎市在住 吉川康子



ふるさととは遠きにありて思うもの。そして哀しくうたうもの。

この詩は詩人室生犀星のころの吐露といえるのでしょうか。若くして、当時あまり愛せなかった故郷を飛び出した私は、いたく共鳴したものです。しかし、五十八歳でふたたび故郷の両親のもとに居を移した私の眼に、長崎のなんと魅力的に映ったことか。東京での生活もエンジョイしていたつもりでしたが、帰ってきた故郷は、私をおだやかな環境とゆるやかな時間の流れで暖かく迎え入れてくれました。海や山がどこからも見える、今はそれだけでも贅沢な環境だと思っています。帰郷して早くも六年経過しましたが、まだエトランゼ気分というか、そのような眼で故郷を楽しみ見つめなおしています。

お正月がすぎ、二月には中国の春節会、「長崎ランタンフェスティバル」です。街中に一万個余のランタンが点され、寒中に鮮やかな色彩で溢れ、寒さが吹っ飛び、元気をもらえそうな気がします。十年を過ぎてますます観光客は増え、活況を呈しています。大イベント「さるく博」が一年、初めて四月一日から十月二十

九日まで催されました。「遊コース」だけでも四十二コース。一コース概ね二時間、五百円。私も四回参加しました。六百人を超えるというガイドサポーターの一生懸命さに感動し、また故郷の新しい発見を随所でさせられました。長崎銘菓やお茶での接待も予期せぬ嬉しいことでした。四月下旬には「帆船まつり」です。長崎港跡地の水辺の森公園・松ヶ枝埠頭、出島ワープ周辺で開催され、ロシア、オランダ、韓国などの帆船、そして日本丸・海王丸などの帆船が集結。入出港パレード、セイドリル（一斉展帆）など、素晴らしい景観を展開してくれます。

「長崎くんち」は説明不要ですね。小屋入り以降、朝な夕な山の上の住まいまで、くんちの鳴り物が聞こえてくる風情は最高です。徐々に興奮し、庭見せ、くんち当日に最高潮、「もってこーい」の連発に翌朝は声が嘎れています。ああ、長崎ってほんなこつよかとこばい。

ふるさと 遠めがね



対馬 馬は朝鮮に最も近く、九州はかなり遠く感じる島です。戦前は急病人が出ると釜山へ運ぶことが多かったと、昔よく聞かれました。

東京に住んでいると、昔のこと懐かしく感じられます。私の周辺の人に対馬を尋ねてみると、九州のどこかにある島ぐらいの知識で、詳しいことは、ほとんどの人が首を横に振ります。しかし、日本の古代を考えてみると、対馬抜きには話しが成立しないぐらい重要な地位を示していることがわかります。

富田徹郎氏の「卑弥呼の幻像」のページをめくってみると、日本の大和王朝の成立が蒙古や高句麗等の北方騎馬民族の移動により影響を受けていることが、論理的によくわかるように記してあります。そしてその倭国の女王卑弥呼が東征して大和の天照大神（アマテラス）と同一人物であらうとの推測が証拠をいくつも

挙げて証明してあります。一、まず同一時代であること（二世紀後半より三世紀はじめ）。二、女王を補佐する男子がいたこと。三、鏡が大好きであること。四、双方とも騎馬民族の出で、二世（あつぎ）も女性であること（トヨ、タカギ）等である。

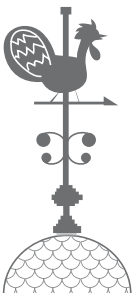
騎馬民族が九州に渡るためには必ず対馬に立ち寄らねばなりません。そして対馬にはおそらく日本のどこよりも多くの古代遺跡があり、それにまつわる物語が残っています。

とくに、大船越には天照神社「アマテル（伊勢神宮の元祖）」といわれる神社があります。

そのことから卑弥呼は倭の女王になる前から少女時代に対馬で生活をしたのではと私は考えるようになりました。

対馬は日本の源であり、今風にいえば店開きをしたところ、九州や大和は都合により本店が移ったかと思われまふ。歴史を忘れた民族は将来が危ぶまれることを思い、今一度日本の歴史をしっかりと捉えてゆくことが必要だと思います。

「卑弥呼」も 対馬にいた



対馬高校東京同窓会長 歌野 宏

各種ご宴会・ご会合・ご商談・クラス会など
お気軽にご利用ください。

かざん
花山

●日本料理 花山

・霞が関本店

(千代田区霞が関3-2-1 霞が関モンテ・イト西館 1F)
TEL 03-3581-3831

・虎ノ門店

(港区虎ノ門2-9-16 日本消防会館B1)
TEL 03-3593-0303

・第一ホテル東京店

(港区新橋1-2-6 第一ホテル東京 2F)
TEL 03-3597-9570

●ビ・ア・イン・カモン KAMON (千代田区霞が関3-2-1 霞が関モンテ・イト西館 1F)
TEL 03-3581-3421

●姉妹店/西洋料理 赤トンボ (港区虎ノ門1-15-12 日本ガス協会ビルB2)
TEL 03-3501-0416

株式会社 花山 代表取締役 林 田 和 雄 (事務所) 〒107-0052 東京都港区赤坂1-3-15 第2中田ビル 6F TEL 03-5571-5788

長崎南高校
関東同窓会総会

長崎南高関東同窓会総会は、7月14日、台風4号の接近が心配される中、六本木の住友会館で開催されました。

当日朝から移動を予定されていた方が飛行機の欠航で来られないなどのハプニングもありましたが、180余名の参加を得、無事盛況のうちに幕を閉じることができました。

幹事は14回生（昭和52年卒業）で、3月から準備を始め、毎月の幹事会は準備そっちのけで盛り上がりを見せ、大いに旧交を温めました。

第24回大村高校東京
同窓会総会・懇親会報告

10月20日（土）14時より、例年通り「アルカディア市ヶ谷」にて出席者約110名で総会・懇親会を開催しました。

当日は、天候にも恵まれ、来賓として、新任（本年度）の田川校長、川久保事務長、大村本部の松本会長他4名、又、在京同窓会（佐世保南、長崎南）の役員の出席を得ました。

本年度の運営は朝野委員長（第22回卒）を中心に、②、⑦、の付く年度が幹事を務めました。話術の巧みなプロマジシャンのマジックショー・多数豪華景品を争ったじゃんけん勝ち抜きゲームの企画、気楽に昔を懐かしむことができる大村弁での会



その成果？ もあってか、瓢箪から駒で決まった今年のテーマ「おくんち」をモチーフに、東高OBの東龍倶楽部による大迫力の龍踊りの実演を始め、卒

業生のプロの漫画家による「おくんち」柄のうちわやTシャツの頒布、南高出身の田上長崎市新市長のビデオレターなど、意外性いっぱい郷愁を誘う出し物に涙する人が続出、近年にない活況を呈しました。

これらの模様は以下のHPでご覧いただけます。

<http://www.h7.dion.ne.jp/~huchu/fuchu471.html>

（前田幸司）

東京海星会総会・懇親会

平成19年度東京海星会総会が11月10日（土）午後6時から東京都千代田区のホテルニューオオタニの「ラビスエール」で開催された。

今年も長崎から海星学園の富永秋人校長、同窓会代表の清水政幸教務部長はじめ他校の在京同窓会の役員に加え、今回初めて姉妹校の暁星学園の浅尾空人会長を来賓にお迎えし、約100名の参加者でした。

総会中西俊雄会長の挨拶に始まり「平成18年度の活動報告及び決算報告」「平成19年度活動計画案及び予算案」が報告承認され、引続き懇親会に移った。

懇親会では、富永校長はじめ来賓の方々の挨拶、清水先生の乾杯の音頭で懇談へ：会場ではモニターテレ

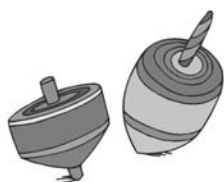
ビに歴代校長、恩師の先生、学園の今昔の映像が映し出され、参加者は若かりし時代に思いをはせていたのが印象的でした。

又、OBで名門智弁和歌山高校野球部の高嶋監督（17回生）と富永校長との海星野球部復活のための野球談義。恒例の会から母校への寄付金の贈呈も行われた。

今回の目玉はなんと言っても全員当選の大抽選会、特賞の液晶デジタルTVあり、県産品ありで会場は盛り上がり、予定を1時間もオーバーした。

最後に参加者最年長の山口義人さんの万歳三唱で無事終了することができた。

（会長 中西俊雄）



在京長崎県下高校 同窓会代表者の集い

平成19年11月22日（木）、霞が関東京會館にて恒例の「在京長崎県下高校代表者の集い」を開催した。

県下高校26校の代表者、県、市の東京事務所および県人クラブ役員の計76名が出席し、各同窓会の活動状況が報告されるとともに和やかに懇談が行われた。各校の在籍数を合わせると約3万人にのぼるが、同窓会等に

東京五島会が盛会に 開催

11月29日千代田区丸の内の日本工業倶楽部において東京五島会（松原剛会長）が開催され、約300名の方々が参加されました。



ふるさと五島を離れて首都圏で活躍中の皆様が、当日は仕事を忘れ、情報交換やネットワークを作る場として交流と親睦を深めました。

五島市からは岩村副市長、荒尾副議長、上五島町からは井上町長、また山田、犬塚両国會議員、馬込、山田両県議、さらに五島市出身の時津風親方らにも駆けつけていただきました。アトラクションでは往年の歌手の千葉マリアさんの歌やトーク、飛び入りのデュエットなどで楽しみました。また、恒例の盛り沢山の豪華景品による抽選会で会場はさらに沸きました。

最後には若手企業家群が壇上において来年の再会を願い万歳三唱で閉会しました。

（又野 寛）



思うほど人数が確保できないのは各校の悩みようだ。

なお、出席高は長崎東、長崎西、長崎南、長崎北、長崎工、長崎商、佐世保南、佐世保北、佐世保工、佐世保商、島原高、島原工、島原商、島原農、大村高、五島高、猶興館高、平戸高、国見高、対馬高、壱岐高、海星高、活水高、長崎女子商業高、長崎南山高、長崎玉成高の26校であった。

第三十四回 長崎西高在京同窓会開催

テーマは「それぞれの昭和」

平成19年10月20日（土曜日）、爽やかに晴れ渡った秋空の下によく映える「ガーデンアイランド（東京プリンスホテル）」に於



平成19年度長崎県人会 総会開催

12月13日（木）6時30分からグランドプリンスホテル赤坂において「平成19年度長崎県人会総会」が開催され、年の瀬の忙しい中、約400名の方々に参加していただきました。長崎の食材の数々がテーブルに並べられ、県産品販売コーナーや長崎ゆかりのイベント紹介を行うブースも設置されて長崎づくめの日となりました。アトラクションとして小松原庸子スペイン舞踊団の華やかなフラメンコが披露され、また130本を超え

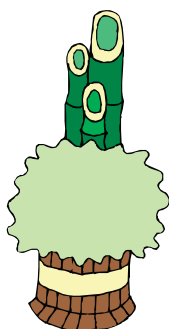


る長崎ゆかりの景品提供もあり、会場は大いに盛り上がりました。（長崎県東京事務所 門司英樹）

いて、長崎西高在京同窓会総会（片山六郎第九代会長）が華やかに開催されました。何と言っても白を基調とした側面総ガラス張りの「ガーデンアイランド」はさながら南国のテラスカフェ、非常にリラックスマードの中、故郷よりの懐かしい恩師や縁ある各代表の方々など多数のご来賓をお迎えし、執行部・総会実行委員会・今年の当番幹事35回生が一九となり出席数約350名の総会を着々と進行。

（26回生 奥田義彦）

特筆は今年の母校卒業生（最新同窓会生）が最後の昭和生まれという意味も込めて、会場のディスプレイや企画などに「昭和」を盛り込んだ。それぞれの



すぐそこに、生活リゾート。



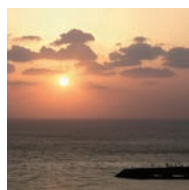
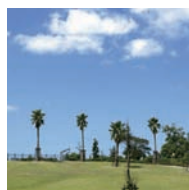
見晴らすのは、海と未来です。

「長崎の中心街」まで車で約10分。海の青と空の青にかこまれて、季節を身近にする暮らしがあります。



ポートウエスト みなと坂

平成17年12月撮影



みなと坂 de 暮らす

「都心の便利さ」と「自然の安らぎ」を楽しむ生活環境。
 ポートウエストみなと坂は、
 274世帯・900人超（長崎市統計月報10月号参照）の家族が
 ゆったりと暮らす街。
 この街に夢を求めて、今も新しい家族が増え続けています。



全976区画



ポートウエスト倶楽部会員募集！

「ポートウエストみなと坂」の最新情報をいち早くお届けいたします。※入会金・会費は無料です。

資料送付をご希望の方は、ハガキに、住所、氏名（フリガナ）、年齢、職業、電話番号を書いて
 〒850-0079 長崎市みなと坂1丁目24番1号「ポートウエスト倶楽部」会員募集 係までお申し込みください。
 ●ポートウエストみなと坂ホームページからお申し込み頂けます。

●ご記入いただいたお客様の個人情報は、弊社事業（ポートウエストみなと坂の営業活動、DM、Eメール、電話による最新土地情報または、ポートウエストみなと坂の土地及び提携ハウスメーカーの建物情報の提供等）または顧客動向分析もしくは新商品開発等の調査・分析及び提携ハウスメーカー12社の営業のために利用させていただきます。●お客様がご自身の個人情報の照会・訂正・削除を希望される場合には、適切な対応をさせていただきます。●ポートウエストみなと坂は、三菱地所リアルエステート株式会社・松尾リアルエステート株式会社・西日本三菱重工業株式会社の共同企業体です。●提携ハウスメーカーは、株式会社一条工務店・株式会社ケンコーホーム・住友林業株式会社・積水ハウス株式会社・大和ハウス工業株式会社・株式会社谷川建設・セキスイハイム九州株式会社・セキスイファミエス九州株式会社・長崎船舶設備株式会社・三井ホーム株式会社・ミサワホーム九州株式会社・西日本三菱重工業株式会社の12社です。

■売主

 三菱不動産株式会社
 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-8-5

 松尾リアルエステート株式会社
 〒840-8666 佐賀市八幡小路1-10

 西日本三菱重工業株式会社
 〒850-8677 長崎市鶴の浦町5-3

■総合コンサルティング及び工事・監修

 株式会社三菱地所設計
 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-7-3

●お問い合わせは

みなと坂インフォメーションセンター ☎ 0120-371-094

〒850-0079 長崎市みなと坂1丁目24番1号

営業時間／10:00～18:00（水曜日定休）

●ホームページは随時最新情報を案内しています。
<http://www.portwest.jp> みなと坂 検索

東京柏葉会第17回同窓会

東京柏葉会が7月14日（土）目白の椿山荘で開催されました。大型台風の影響にも拘らず会員238名、来賓・恩師の方々23名を加えた合計261名の方々にご参加いただきました。総会を前に卒業生による記念講演が行われました。講師は原岡笙子（第7回生）でテーマは「英語をリズムで楽しくマスターしよう」でした。

今回の総会は事務局及び責任幹事7回、17回、27回が中心となり各年次幹事の協力の下で行われました。

始まり、吉田会長の挨拶、今村幹事長の会務報告、会計担当の松本さんと国吉監事からの会計及び会計監査報告があり、会員の皆様の承認を頂きました。来賓として柏葉会本部の梶山会長を始め、藤原佐世保南高校長、佐世保市の朝長新市長（佐世保市東京事務所西本所長代読）よりご祝辞を賜りました。

みんなで大合唱のコーナーでは、故郷、夏の思い出など、懐かしい歌を昔に帰り、心ゆくまで歌いました。

さらに福引、ミニバザールなどで盛り上がり、12回生馬場副会長の閉会挨拶で無事終了、皆で来年の再会を約束し、散会となりました。

長崎県立佐世保南高等学校同窓会 第十七回東京柏葉会総会



（今村勝義）

長崎北高凱旋公演

北高同窓会で合唱団「コールN」を立ち上げたのは平成13年9月の事。

6年目を迎えた今年の8月18日、我が「コールN」は母校の体育館にて現役北高3年生を前に合唱を披露しました。北高の卒業生が東京で世代を越えて楽しく集っている事を見てほしかったし、何より若い卒業生が親元を遠く離れて東京での一人暮らしを始めても北高、そして長崎出身の仲間が大勢いることを知ってほしいという気持ちがあったからです。

土曜日の4時限目に4曲の合唱と同窓生プロピアニストによるピアノ演奏、昔の思い出話の披露など盛り沢山の会となりました。また夜は思いもかけず北高オーケストラ部顧問の田中先生（今年退職された）のご厚意で、千歳ピアノホールにて北高オーケストラ部OBとの共演も叶いました。

オーケストラをバックに歌えた事は団員の一生の思い出となりました。ホールには団員の親を始め沢山の観客が聞きに来て下さり、親孝行も出来た幸せな一日でした。

（大崎京子）

90周年記念総会に280人集う東京雪州会

東京雪州会（山内賢明会長）は平成19年10月28日、東京・港区の東京プリンスホテルで平成19年度東京雪州会創立90周年記念総会並びに懇親会を開き、沓岐を始め総勢280人を超える過去最多の出席者で賑わった。

故郷・沓岐から県議、市議会議員、長崎県沓岐地方局長ら行政関係や関係諸団体代表ら45人が出席。さながら「ふるさと総会」の様相を鮮明にした。

今年は東京雪州会が1917年（大正6年）の創立以来90周



年の節目の年に当たり、関東地区の会員はもとより全国規模で沓岐関係者に参加を呼びかけた結果、予想を大幅に上回る人数となった。雪州会90年の歴史と伝統の重みの反映であり、雪州会のパワーを見せつけた形だ。

総会の席上、東京雪州会は昨年に続き、沓岐への緑化寄付金（20万円）の目録を山内会長から沓岐市代表に贈呈した。これは沓岐の植樹を通じ、素晴らしい自然を護り、環境保全に役立てようとの狙いによるものである。

懇親会では、沓岐特産品の即売会のほか、麦焼酎やグアム旅行券（2枚）など盛り沢山の賞

品を揃えた福引抽選会も大いに賑わい、90周年を飾るに相応しい活気溢れる雰囲気、大宴会場も終始熱気に包まれた。

（東京雪州会 副会長兼幹事長 牧山康敏）



第34回東京佐世保「ふるさと佐世保の夕べ」開催

第34回東京佐世保会総会（ふるさと佐世保の集い）は、平成19年10月19日（金）午後6時30分から、昨年と同様に西新宿センチュリーハイアット東京（10月よりハイアットトリージェンシー東京に名称変更）で、盛大に開催されました。

参加者、約250名となった会では、佐世保南高校19回生卒の朝長則男佐世保新市長を始め、多くの来賓の方々をお迎えし、小野会長挨拶、決算報告、佐世保市長挨拶の後、光武顕前佐世保市長の当会への過去のご貢

長崎工業関東支部同窓会総会

去る11月10日東京會館霞が関ビル35階パーティ会場にて第28回長工関東支部同窓会が102名の出席で開催されました。

今年も同窓会本部三田村会長、現教頭の竹下先生をはじめ多数のご来賓、同窓生の参加を得て懇親会・有志参加の二次会に多いに盛り楽しいひと時を過ごしました。

今回は電子・情報科が担当幹事となり7回の検討会を催して準備しました。新たな試みとして、歌手によるイベントをやめ同窓生同志の会話に中心テーマ

献に対して感謝状と記念品の贈呈を行いました。光武前市長は、ご挨拶で今後の東京佐世保会の発展を期待するとのコメントでした。その後、来賓紹介があり、代表して北村誠吾衆議院議員・大久保潔重参議院議員、竹本慶三させば四ヶ町組合理事長の挨拶がありました。

佐世保観光コンベンション協会から派遣された、「サンメール」美女2名による佐世保市の宣伝を経てイベントに移りました。

今年のイベントは、佐世保聖和女子学院出身で、元日劇ダンシングチームの桑原真由美ファミリーによる楽しく華やかな歌とダンスのショーで会場が明る

がおかれました。その結果、最初は科ごとの配席も後半を出身地区別に移動させ「ワイワイがやがや」と幅広い交流が図れるように企画されました。今年は本校創立70周年の節目に当り前週には本部での各種記念行事も盛大に行われたそうです。懇親会の中では松山相談役と本田会

長に長年の同窓会活動での貢献に対する感謝状が本部三田村会長より授与されました。また、今回は関西支部の横山会長にもご参加頂き、今後も交流を進めて行くことで親睦を深めました。今回の懇親会イベントを紹介

しますと：①プロジェクトを用いて、本



校70周年記念映像と今年の長崎の精霊流し番組を映写しました。②機械科出身の城谷さんによる腹話術ではおなじみの「ゴロー

くなり大変盛り上がりしました。次に恒例の福引き抽選ですが、今年は会長賞と市長賞及びSNA航空賞はジャンケン大会で決めましたが、勝った人・負けた人で悲喜こもごもの様子でした。その他の賞品は時間の関係上事前に抽選し、ホワイトボードに掲示しました。

最後に佐世保中学顧問・中村豊様より閉会のご挨拶があり、お開きとなりました。

帰りには、全員にお土産を渡しましたが、その中には「青さ」・「エイヒレ」・「サクツと小いわし」・「海軍さんのビーフシチュー」・「九十九島せんべい」の郷土の名産品と提供



品のチョーコー小瓶醤油が入っていました。

また、会場には佐世保の物産展（てんぷら・あご・かんころ餅等）や渋谷西村の郷土の「大西海みかん」販売等を開催し、大変好評で佐世保の物産は売り切れしました。

今年もお陰様で多数の東京柏葉会の皆様にご出席戴きました。が、関係者としても、郷里佐世保の暖かさ、佐世保の懐かしさの雰囲気を感じて戴いた会合であつたと思っております。皆様の多大なご協力に感謝しますとともに、来年もより多くの皆様にお集まり戴きたいと願っております。有り難うございました。

（今村勝義）

ちゃん」が会場を沸かせました。③各科有志による昔懐かしいヒット曲の合唱大会も盛りまりました。

④定番だったビンゴゲームから抽選会に変えました。高額商品券や造船科の中野さん提供の自家栽培した野菜セット引換券、有志提供の多数の景品類を当てる幸運の女神役を北高出身の「美女」大崎さんが務めて下さいました。（深謝！）

二次会はすぐ横のパーティ会場で開催し、満席になる盛況振りででした。良く話題が続くと感心する程の語らいに時の経つのも忘れしました。その後、来年の再会を約し散会しても更に有志

で三次会に繰り出したりしました。私も四人グループで新橋で飲み、最終電車で辛うじて間に合い帰宅することが出来ました。筆者はホームページに掲載する写真を撮影することに奮闘したんです。

（近藤正則 機械45年卒）

ながさき産直うまか市
を開催！

12月8日（土）、新宿区四谷の長崎県東京産業支援センターで「第10回ながさき産直うまか市」を開催しました。



当日は、天候にも恵まれ多くのお客さんで賑わいました。販売商品の中では、揚げ蒲鉾やこだわりの水産加工品、平成「長崎俵物」が人気で、商品が欠品するほどお問い合わせいただきました。五島手延うどんや長崎みかんも人気で、試食されたお客様は美味しいと口を揃えておられました。

また、対馬しいたけのつかみ取りを目当てに来場されたお客様も多数いらっしゃいました。今回の「ながさき産直うまか市」は、平成20年3月8日（土）10時から14時まで、長崎県東京産業支援センター（新宿区四谷1-10-2）で開催いたします。みなさまのご来場をお待ちしております。（門司英樹）

長崎県の未来を語る
タベを開催

11月5日（月）、東京長崎懇話会「長崎県の未来を語るタベ」を開催しました。

当日は、長崎県ゆかりの経済界をはじめ官界、国会議員など約400名の方々にお集まりいただき、物産流通、観光・文化、企業誘致の3分野のプレゼンテーションを行い、長崎県の抱える課題や取り組みについて説明しました。

また、三川内焼・波佐見焼など陶磁器や焼酎、五島うどんなど長崎県の優れた県産品を紹介するとともに、世界遺産登録を目指す教会群や新幹線西九州ルートなどについて展示を行いPRしました。知事からは、「長崎県の応援団」



（門司英樹）

として、さらなる支援をお願いしました。

「旅する長崎学」講座が
早稲田大学エクステンションセンターで開催

9月22日（土）から8回にわたり、「いざ長崎遊学の旅へー旅する長崎学」講座が開催されました。約200名の聴講者があり、脚本家・作家の市川森一氏をはじめ毎回多彩なゲスト講師を迎えて、世界遺産を巡る旅トークがなされ好評のうちに終了しました。

平成20年1月26日（土）14時～16時30分には、江戸東京博物館で三浦朱門氏等のゲストを迎



えてトークショーが行われます。また、2月3日（日）と2月10日（日）には江戸東京博物館が主催する「江戸博カルチャー」として「長崎vs江戸」講座が予定されています。キリスト教の伝来から布教、禁教、復活の歴史に加えて、日本の近代化の歴史の中で江戸と長崎を結ぶ交流の歴史など、今後も長崎の奥深い魅力を味わえる機会を提供していきます。

（門司英樹）



—— 探していた「安心」は、ふるさとにあります。（長崎電気軌道・新中川町電停 徒歩3分）——
充実した設備と手厚い介護でご家族を支えます。

介護付有料老人ホーム
（一般型特定施設入居者生活介護）

アンムート櫻馬場

24室
（全個室）

平成19年10月1日オープン【指定特定施設入居者生活介護】

●お問い合わせ・資料請求先

TEL. 095-825-2308 FAX. 095-825-2310

長崎市桜馬場2丁目6-8 受付時間/9:00～17:00

【ホームページ】

<http://kaigonoanmut.jp/>

詳細は、Yahoo!セカンドライフからもご覧いただけます。

入居者募集

賛助会員紹介

株式会社メモリード

「冠婚葬祭に見る時代の流れ」

長崎から東京へ移り住んで長くなる人にはメモリードといっても「ん？」かも知れません。冠婚葬祭、互助会の会社：もっと平たく言えば、結婚式場や葬祭ホールを持ち、婚礼や葬儀を行う会社です。

長崎市内で一九六九年（昭和四四年）、今から三八年前に産声を上げました。その年、アメリカの宇宙船「アポロ」が人類史上初めて月面着陸し、長崎では国体が開催され、また、沖縄の日本返還が約束されました。当社は現在、長崎県内および佐賀県内に結婚式場九ヶ所、葬祭ホール一五ヶ所を有して営業し、さらに全国へ営業網を広げ、九州では福岡県・宮崎県、関東では東京・埼玉・群馬でグループ会社を形成し、婚礼・葬祭で一〇〇を超える施設を擁しています。

皆様も身近で感じになっていると思います。皆様が、婚礼・葬儀に対する人々の考え方やセレモニーのスタイル、お金の遣い方などは大きく変わっています。婚礼では仲人（媒酌人）のいない結婚式が多数を占め、披露宴もガーデンウェディングなどバラエティに富んでいます。葬儀



長崎ロイヤルチェスターホテル
(長崎市赤迫3丁目6-10)

では自宅葬・お寺葬の流れから葬祭ホールでの葬儀が当たり前となり、身内だけによる、家族葬やホテルでの、偲ぶ会、お別れ会、形式も増えています。

当社としてはそういう時代の流れや人々の考え方、ニーズを先取りする創意・工夫が欠かせないところです。ただ二つの儀式に共通するのは、真心を以って尽くすということです。新しい人生の出発となる結婚式、人それぞれに抱く葬儀のいずれにも、心配り、心配りが大切なことです。

メモリードはお客様から「ありがとう」と言われる会社作りを目指しております。

(連絡先) 千八五一・二二二七
長崎県西彼杵郡長与町高田郷一七五・一〇

メモリードグループ総合本部
岩永鐵太郎

新刊紹介

長崎新聞社刊 山内賢明著

壱岐焼酎

定価 二二〇〇円(税込)

「壱岐焼酎」蔵元が語る麦焼酎文化私論。
瀬戸内海の小豆島程の平坦な壱岐の島が、日本麦焼酎発祥の地であるという。

その壱岐の島に、創業百年を超える蔵元が、遺跡の発掘などによる島の古代からの歴史をひもとき、その中でどぶろくに始まる焼酎が自然と風土に合ったものとして育まれてゆく過程が興味深い。

蒸留酒である麦焼酎の製造方法の解説から、戦中・戦後の苦難を乗り越え、ひたすら旨い焼酎造りに情熱を燃やして努力して来たかが伝わる。

島内だけの販売から焼酎ブームに乗って七

文芸春秋刊 吉村 昭著

ひとり旅

定価 一三六五円(税込)

平成18年に永眠された吉村昭氏の最後の随筆集である。戦記小説「戦艦武蔵」、歴史小説「桜田門外の変」、海洋小説「漂流」などはわくわくして読んだものだ。

奥さんである津村節子さんの序によると、執筆の際は公的な文書を参考にせず、一人で現地に赴き、独自の方法で徹底的に調査をしたその執念と、あくまでも事実こそ小説であるという創作姿勢から「ひとり旅」という表題にしたと述べられている。

軒の蔵元がそれぞれの個性を持った銘柄で全国展開してゆく。

果たしてその焼酎のルーツは？

蒸留酒のルーツを求めて夢はシルクロードまで膨らみ、中国、朝鮮ルートから壱岐へ伝わったという思いを強めている。

そして全国展開したこれからは世界へ向かって羽ばたき始めている。

長兄の死によつてはからずも家業を継いだ蔵元の愛情溢れる壱岐焼酎文化私論である。

著者の山内賢明氏（玄海酒造(株)社長）は東京雪州会会長としても活躍している。



執筆にまつわるエピソードや後日談があり、氏の小説を再読したくなつた。
特筆されるのは県人クラブ機関誌「長崎倶楽部」No. 29 (2000 7/7・20) の氏との巻頭インタビューの記事が19ページに亘って記載されていることである。



世界が認めた壱岐焼酎

2007年 モンド・セレクション

国際優秀品質賞受賞



壱岐麦焼酎

瀧泉

たきいずみ



Monde Selection 2005 Grand Gold Medal



Monde Selection 2006 Gold Medal



Monde Selection 2007 Gold Medal

むぎ焼酎
壱岐
いぎ

福岡国税局19年度
酒類鑑評会に於いて
優秀賞を受賞いたしました。

◎本格焼酎 アルコール分：27度 内容量：1,800mL

タキイズミ

「瀧泉」は、
モンド・セレクションに於いて、
3年連続金賞受賞により、
国際優秀品質賞の
特別賞を受賞致しました。



●壱岐スーパーゴールド22
720mL (22度)



●むぎ焼酎 壱岐
1.8L (25度)

〔醸造元〕玄海酒造株式会社

〒811-5125 長崎県壱岐市郷ノ浦志原西550-1 TEL.0920-47-0160 FAX.0920-47-0211

◎飲酒は20歳になってから。 ◎お酒は適量を。 ◎妊娠中・授乳期の飲酒には気をつけましょう。